医療法人善慈会 大分丘の上病院 広報誌

丘の上だより

Vol.35
平成29年
5月発行

法人理念

大分丘の上病院は、医療・保健・福祉を通して、人々の健康向上に寄与し、地域社会の発展に貢献する。

病院の基本方針

- 思春期から老年期までの精神医療と心身医療に広く取り組みます。
- 人権を尊重し、共に歩み、癒しをもたらし、再生を目指す医療を行います。
- 科学的な治療を、各職種のチーム医療で誠実に提供します。

目次

九州集団療法研究会特集 …… P2.3
かわら版
　心理療法士 …… P3
春のコンサート …… P4
治療実績（2016年度） …… P4

九州集団療法研究会特集

第42回 九州集団療法研究会を開催しました

3病棟師長
梅木 達也

平成28年11月26日。当院にて第42回九州集団療法研究会が開催されました。当院で行うのは今回で4回目です。研究会への参加者は約300名。8病院からの発表があり、韓国の大同病院からの発表もありました。

集団と私の関わりというテーマのもとに各病院で行っている集団療法での取り組みや集団を通して学んだことなど事例を通して討論しました。各病院での取り組みや困りについて情報を共有することで、私達の医療の方向性を再認識し、誤った方向については軌道修正が出来たように思います。また、今回の学会を通じて職員が研究会を成功させるために一致団結出来た事は大きな集団力動が働いた結果だと思っています。

大会までの準備期間に数ヶ月を要しましたが、無事に研究会を終えたことをこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

8つの病院からの発表がありました。どの会場も真剣な議論…

久し振りの主催で緊張しながら入念な打ち合わせ。スーツ姿も様になっています

終了後の懇親会。みなさんお疲れ様でした

院長先生の特別講演。たくさんの人が聴講しました

第42回 九州集団療法研究会での分科会発表

2病棟主任 看護師
喜舎場 永一郎

第42回九州集団療法研究会の当日は、冬の寒さを感じる天候でしたが、数多くの方々にご参加いただきました。

私は第7分科会にて「複雑性PTSD患者への関わりとスタッフチーム内の変化」について発表をしました。患者様の治療グループではなく、スタッフグループに視点を置いた発表をした背景には、自分達の病棟でスタッフそれぞれが強い疲弊に見舞われ、結果として伸び悩んでいる、その現状を何とか解決したいという思いがありました。PTSDだけでなく、諸々の疾患において、その治療・支援には相当の労力やマンパワーが必要です。発表を聞いていただいた方々が所属される病院ではどの様な工夫をされているのか？教えてもらいたいという思いも強くありました。結果として支援を行うスタッフのストレス軽減・疲弊回避をどの様に実現させていくかに関し多くのアドバイスをいただきました。小さな歩みでも毎日取り組むこと、病棟という枠を越えて病院内での取り組みが必要な事、またスタッフチームという集団であっても伸び悩む時期は避けられないのではないか？伸び悩みは大切な経験ではないか？といったアドバイスをいただきました。

医療従事者の不足も叫ばれる中、適切かつ質の高い医療を提供するには、スタッフチーム力向上は不可欠です。今後、発表で得た経験を糧にさらなる精進を重ねていきます。

心理療法士かわら版

第34回 大分県病院学会での発表で学んだこと

心理療法士
林 憲造

昨年11月13日に別府市B・CONPLAZAで行われた大分県病院学会にて、当院が実施している認知症の方のご家族を対象にした家族会について、学会発表を行ってきました。大分県病院学会は、今年は2500名を超える参加者がおり、会場には様々な職種が症例発表やポスター発表を積極的に行っていました。

私の発表は、『認知症の方の家族への支援～いきいき交流会に参加することで生じる家族の変化～』と題して、会の立ち上げから運営、使用している技法、問題点などを紹介しました。質疑応答の際に、『ご家族を対象とした会を行うことで、ご本人の治療にどのような影響があるのか』という質問がありました。これは、私も家族会を実施するまではっきりとは分からないことでした。しかし、実践していく中で、ご家族が疾病や対応法を理解することは、ご本人の症状の安定につながりました。また、同じような悩みを持つご家族が話し合うことで、「一人じゃないんだ」という安心感も生まれていました。そして、ご家族の理解や安心感が、ご本人へのより良い対応を可能にし、ご本人が穏やかになったり、自然と笑顔が多くなったりしていました。

今回発表するために会の内容を振り返ったことで、ご家族の支援の重要さに改めて気づかされました。当院では、統合失調症の方のご家族を対象にした家族会も開催しています。そこでも、今回気づいたことを提供できればと思います。

春のコンサートを開催しました

毎年4月に行われる JAZZ コンサートに加え、今年は3月にクラリネットコンサートが行われました。

3月のクラリネットコンサートは、帆秋有里子先生のご友人であり別府アルゲリッチ音楽祭に出場された倉堀翔さん、ピアノ伴奏として吉元優喜乃さんをお迎えしました。誰もが馴染みのある曲を演奏していただきながら、クラリネットのことを丁寧に教えてくださいました。普段なかなか触れることができないクラリネットですが、その柔軟で力強く、あたたかな音色に癒やされたコンサートになりました。

また、4月には岩見淳三さん・YAYOI さんの JAZZ コンサートが行われました。毎年恒例とはなっていましたが、昨年は熊本の震災のため開催できず、2年ぶりとなりました。特別出演の院長先生をはじめ、職員も参加する催しがあり、会場が一体となって拍手や歌唱を行い、元気をいただいたコンサートになりました。

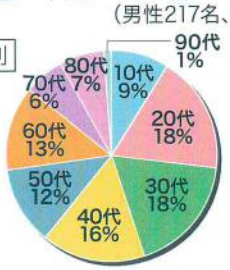
2つのコンサートを通して、あたたかな春の到来が感じられました。

治療実績（2016年度）

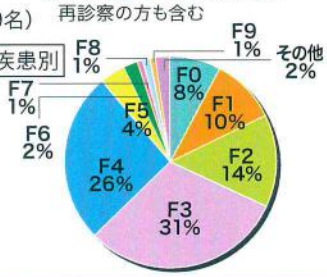
①新患　年間：496名
（男性217名、女性279名）

※3ヶ月以上受診をしていない再診察の方も含む

年齢別



疾患別



新患の年齢は10代～20代が134名（27%）、30代までを入れると225名（45%）を占める。

認知症の周辺症状による問題行動が原因で受診される高齢者が多くなっている。

アルコール依存症、認知症の患者様の入院紹介が多い。

不安障害、適応障害等の受診が多くなっている。

リワークプログラムを行っているので気分障害の紹介が多い。

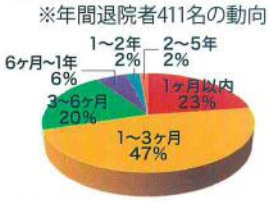
- F0 症状性含む器質性精神障害（認知症など）
- F1 精神作用物質の使用により精神及び行動の障害
- F2 統合失調症、統合失調症障害及び妄想障害
- F3 気分（感情）障害（うつ病、躁病、躁うつ病）
- F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（不安障害、強迫性障害、適応障害など）
- F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害など）
- F6 成人の人格及び行動の障害（人格障害など）
- F7 知的障害
- F8 心理的発達の障害（自閉症、学習障害など）
- F9 小児（児童）期及び、青年期に通常発症する行動及び情緒の障害（他動性障害など）

②年間入退院数、平均在院日数

年間入院数：418名
年間退院数：411名
平均在院日数：117.6日

③入院期間

※年間退院者411名の動向



411名中、3ヶ月以内に288名（71%）が退院され、6ヶ月以内372名（91%）の患者様が退院されます。

病院までのご案内

- 大分駅より車で約25分（米良バイパスが近道）
- 大分自動車道米良インターより車で約10分
- 豊肥本線「中判田駅」より車で約5分

発　行
医療法人 善慈会 大分丘の上病院
理事長・院長 帆秋 善生
〒879-7501 大分市大字竹中 1403
TEL 097-597-3660 / FAX 097-597-3657
ホームページアドレス http://www.okanoue-hospital.com/